

## ■伏古小学校の実践

### (1) 研究内容

サッポロピリカコタンを活用したアイヌ文化学習

### (2) 学習活動を通して育てたい力

アイヌ民族が自然を生かし克服するために生み出した知恵や技術、アイヌ民族の文化や考え方のすばらしさを学習することを通して、「人を知り、人を思い、人を大切にする力」を育む。

### (3) 実践の内容

#### 【実践①】「北海道の歴史～北海道をつくりあげてきたアイヌ民族～」

##### ○ねらい

北海道の地名とアイヌ民族の言葉の関係をすることを通して、アイヌ民族の生活と私たちの生活にはつながりがあることを知る。

##### ○学習内容

北海道にある地名の由来について、クイズ形式で学習することを通して、北海道の地名にはアイヌ語で地域の自然の様子を表したものが数多くあることに子どもたちは気付く。北海道には「アイヌ民族」が昔から暮らしていて、北海道という厳しい環境で暮らすためのたくさんの知恵や独自の考え方、豊かな文化を築いてきたことを知ることができた。

#### 【実践②】「アイヌ民族の生活や用具」

##### ○ねらい

アイヌ民族が使っていた漁具「マレク」を通して、アイヌ民族が感謝の思いをもって漁をしたり、食事をとったりしたことに気付く。

##### ○学習内容

マレク（レプリカ）を実際に使用してみると、一匹ずつしか獲ることができず、マレクが網などに比べて非効率的であることに気が付くことができる。実際、子どもたちは、「大変」「難しい」「これで何匹も捕るのは面倒」と話した。では、なぜ、あえてこの道具を使用するのか。その疑問について子どもたちと話し合う中で、「食べ物は神様からいただいたもの」であり、「必要な分だけをいただく」というアイヌ民族の考え方の存在に気付くことができた。

### 【実践③】「アイヌ民族の衣服や住居」

#### ○ねらい

アイヌ民族の衣服や住居の写真・絵から、その材料、作り方を調べることを通して、アイヌ民族が身の回りの自然を生かして、衣服や住居をつくって生活していたことに気付く。

#### ○学習内容

アイヌ民族の衣服といっても、様々な素材のものがあり、住居も地域によって素材や建て方に違いがある。写真や絵をもとに、衣服や住居の材料や作り方について調べた。それを通して、アイヌ民族が身の回りにある自然を生かし、工夫して生活していたことに気付くことができた。

### 【実践④】「アイヌ民族の行事」

#### ○ねらい

イヨマンテのお祭りを知ることを通して、アイヌ民族が神様を大切にしていることに気付く。

#### ○学習内容

イヨマンテは、アイヌ民族にとって、とても大切な儀式であり、儀式当日までには、大変多くの時間をかけて大切に準備をする。なぜ、たくさんの人がたくさんの時間をかけて、イヨマンテを執り行うのか。言葉と写真でその手順を追う中で、アイヌ民族が「大切な存在としてクマ（神）に向き合っていること」「重要な意味をもって殺す（おくる）こと」に気付くことができた。

### 【実践⑤】「アイヌ民族の考え方」

#### ○ねらい

アイヌ民族が、身の回りの生き物やものを神と考え、感謝の気持ちをもって、ものを扱ったり、生き物に向き合ったりしていることに気付く。

#### ○学習内容

これまでに、用具、住居、食事、生き物に対するアイヌ民族の思いを学習してきた。それらを振り返り、整理する中で、「アイヌ民族が身の回りの様々なものを神と考え、大切に扱っている」ことに気付くことができた。

### 【実践⑥】「アイヌ民族のよさについて新聞にまとめよう」

#### ○ねらい

アイヌ民族について、興味をもって調べたことを新聞にまとめることを通して、アイヌ文化のよさについて気付く。

### ○学習内容

それぞれが興味をもったことをもとに、一人一枚新聞を作成することを伝える。  
各々が興味をもったことについて整理し、それをもとに現地学習の計画を立てた。

### 【実践⑦】「ピリカコタンで調べよう」

#### ○ねらい

アイヌ民族について、興味をもったことについて、実際の資料をもとに調べる。

### ○学習内容

ピリカコタンにて、アイヌ民族の歌や踊りについて学習した後、展示物の中から興味をもったものを中心に調べ学習を進めた。

### 【実践⑧】「アイヌ民族のよさについて新聞にまとめよう」

#### ○ねらい

アイヌ民族について、興味をもって調べたことを新聞にまとめることを通して、アイヌ文化のよさについて気付く。

### ○学習内容

それぞれがピリカコタンで調べたことをもとに、一人一枚新聞を作成した。

## (4) 成果と課題

### ① 成果

具体的なものや写真を提示し、理解を深めていく中で、子どもたちは、アイヌ文化の豊かさを感じ取ることができた。とりわけ、アイヌの人々がものや生き物を大切にし、神を大切にする事実「アイヌの人たちは優しい」と感動する姿が印象的であった。ピリカコタンでの現地学習を前に子どもたちが口々に、「アイヌの人たちと直接会ってみたい。」と思ったのは、子どもたちが、アイヌ文化の様子を知り、アイヌ民族の考え方を知ったことで、尊敬の気持ちをもつことができたからだ考える。ピリカコタンで、踊りや歌を教えていただき、様々な展示物を目の当たりにしたことで、その感動や尊敬の気持ちはさらに高まった様子であった。子どもたちの作成した新聞は「アイヌの人たちはすごい」という思いが強く伝わってくるものであった。「人を知り、人を思い、人を大切にする力」を身に付けることができたと考える。

## ② 課題

社会科の学習では、実物を触ったり、操作したりすることを通して気付くことに大きな価値があると考えます。とりわけ、アイヌ文化の学習では、アイヌ民族が使用していた道具が身近な場所で簡単に見つけることが難しいだけに、実物を授業で扱うことの価値は非常に高い。子どもたちが授業の中で、より多くの実物に触れることができるようにすることは、今後の課題である。それだけに、ピリカコタンでの経験は子どもたちにとって非常に大きいものになったと考える。

また、今回の現地学習では午前中のみ予定を組んで実施したが、子どもたちの意欲が予想以上のもので、どの子どもたちも「もっと見たかった」と話していた。子どもたちが自分の興味をもったことについて、より広く、深く学習する時間を確保するためにも、1日がかりの日程で現地学習を実施する必要性を感じた。